



\*1201100596769\*

禁電子式複写

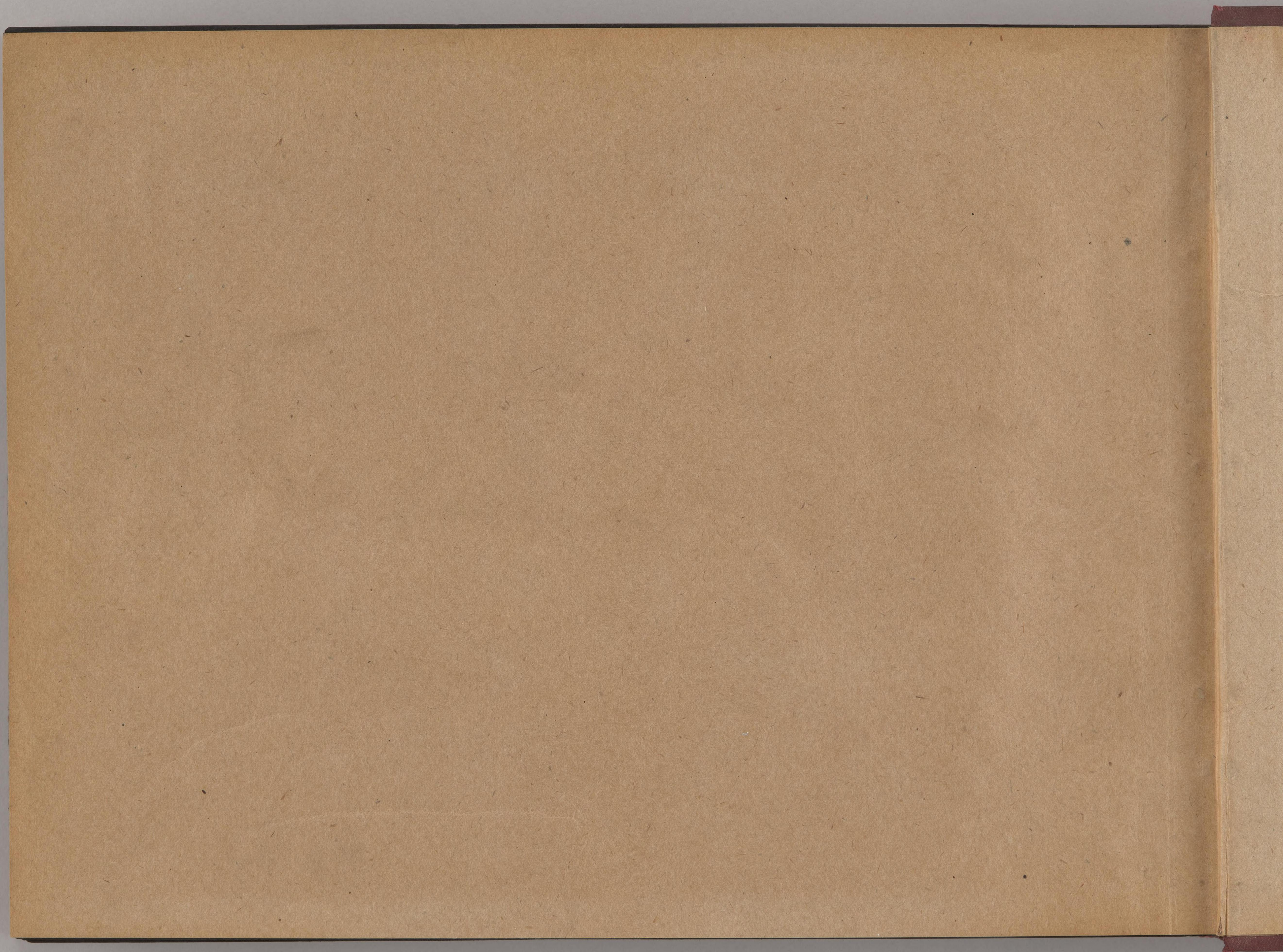
53  
52

Ⓔ

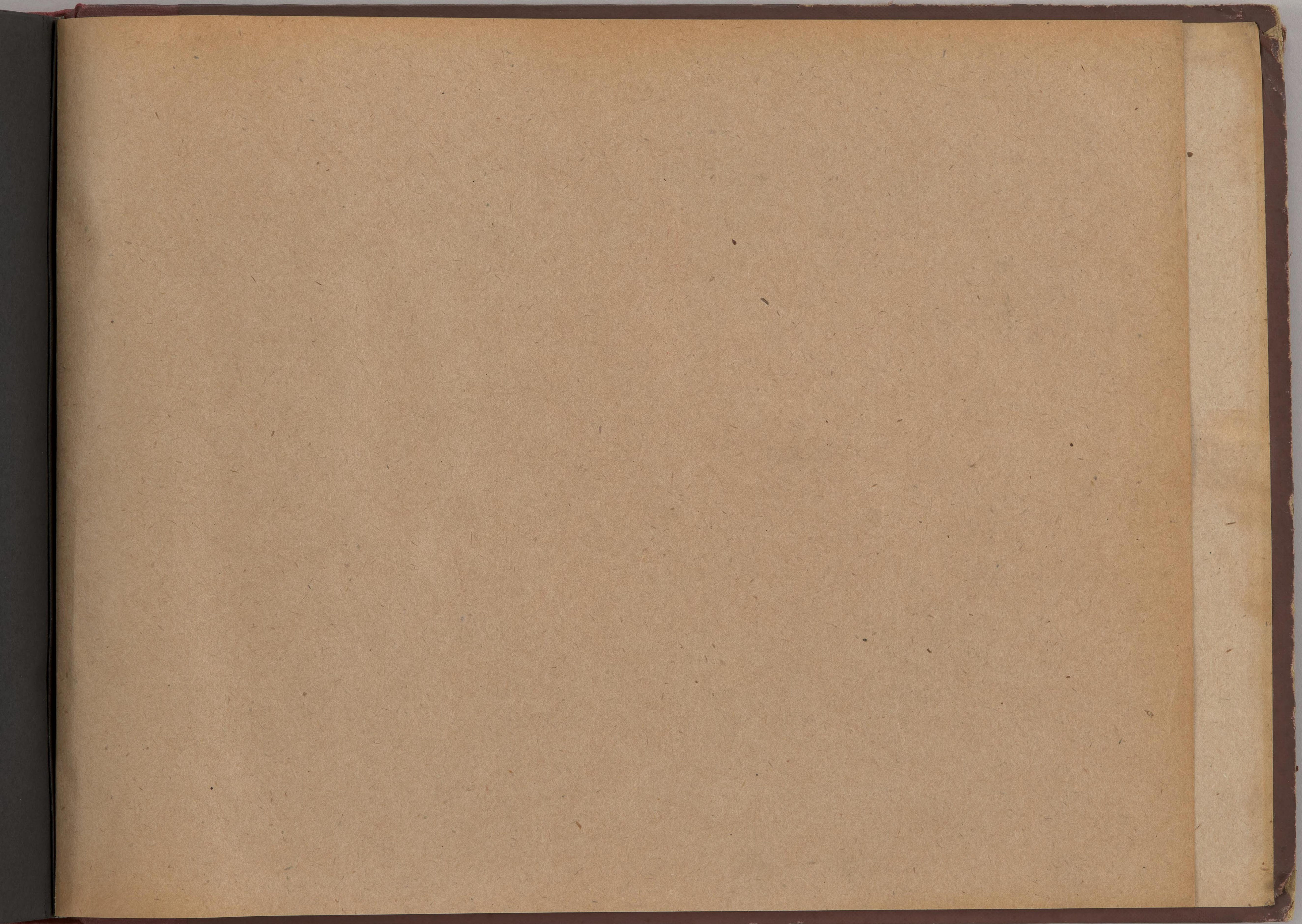








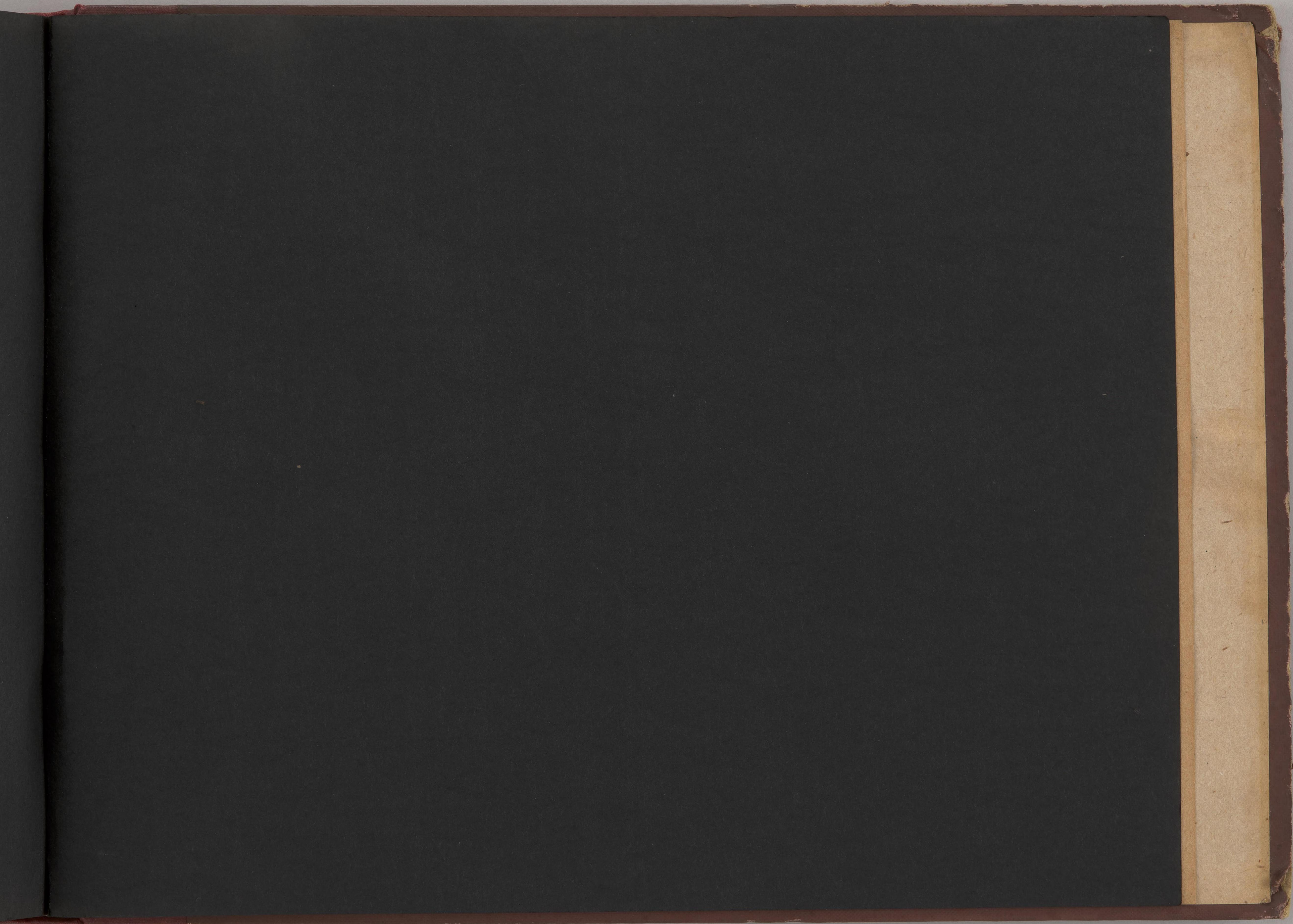




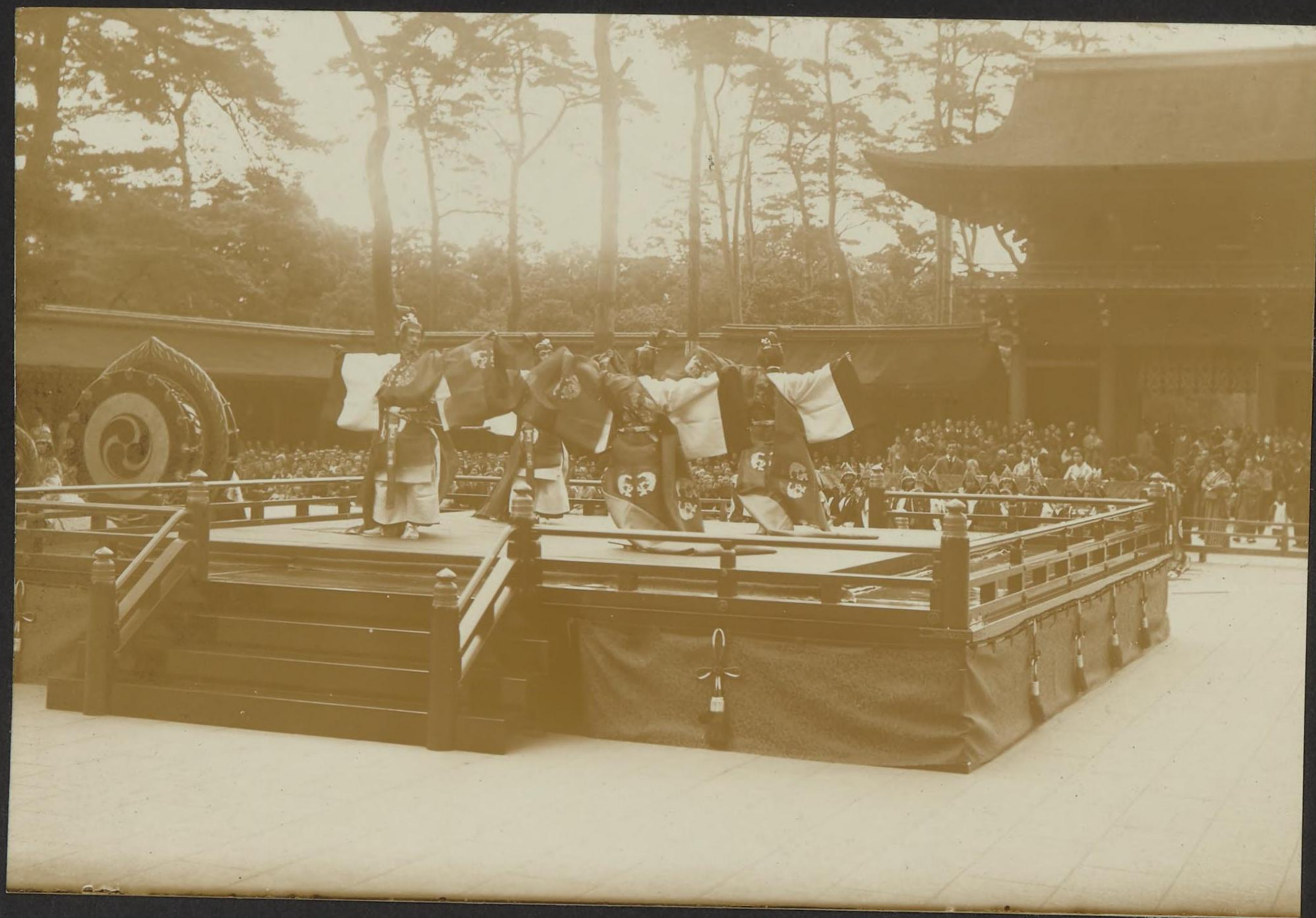












◎明治神宮記念舞樂  
 大正四年五月一日明治神宮の別格官幣大社列  
 格を仰せ出された一日はその記念日に營るの  
 て明治神宮では神宮關係者多數を招待、拜殿  
 前の舞台において午後一時から多忠朝樂長以  
 下廿九名の宮内省樂部員による越天樂外三曲  
 の舞樂の演奏を行つた。  
 寫眞は喜春樂



◎聖戦下二度目の徴兵検査

一東京一十四年五月一日  
みどりの朝風に徴兵署の大國旗がハタ／＼と  
鳴る、青葉薫る一日を期して聖戦下二度目の  
徴兵検査が全國一斉に開始された。  
寫眞は淺草區役所にて







◎伊太利大使構造展へ  
（東京）十四年五月一日  
構造社第十二回展覧會は一日から上野府美術  
館において開催されたが午前十時半にはアウ  
リツチ伊大使が参観し陳列中の塑像「親睦」  
の前に立つて大使はしはし動かなくつた。こ  
の作者和田垣良雄氏（四八）は構造社協賛員  
として多年同會に出品してゐたが先年網膜剝  
離症を病ひ不幸失明するに至り彫刻家として  
失意の底に沈んでゐたがたまさきにイタ  
リヤの失明彫刻家フィリツプ・パウソラ氏が  
我國の今事變による失明勇士達を激勵するた  
めに送つて來たブロンズ作品を觸知するや勃  
然たる制作慾に燃え立ち今度は日本からイタ  
リヤに贈るのだと精神を傾けて作つたのがこ  
の「親睦」と名づけられた作品で作者（左ど  
パウソラ氏）右ががつちりと肩を組んでゐ  
る涙ぐましい姿を表現したもので、この見へ  
さる眼を通して防共兩國の親愛を表す傑作に  
アウリツチ伊大使もいたく心激してゐた。  
寫眞は  
一、和田垣氏の作品に感激する伊太利大使と  
作者（手を組む）







◎「日本の歴史」完成に  
印度から老學者來朝

齡七十の老軀を携げ三十三年前に著した一日  
本歴史を完成させようとはるはる印度から  
來朝した印度人辯護士が一日午前十一時外務  
省を訪れ市河文化事業部長と面會した  
寫眞はパテイ氏（左端）令嬢シンドさん、令弟  
シユタラム氏

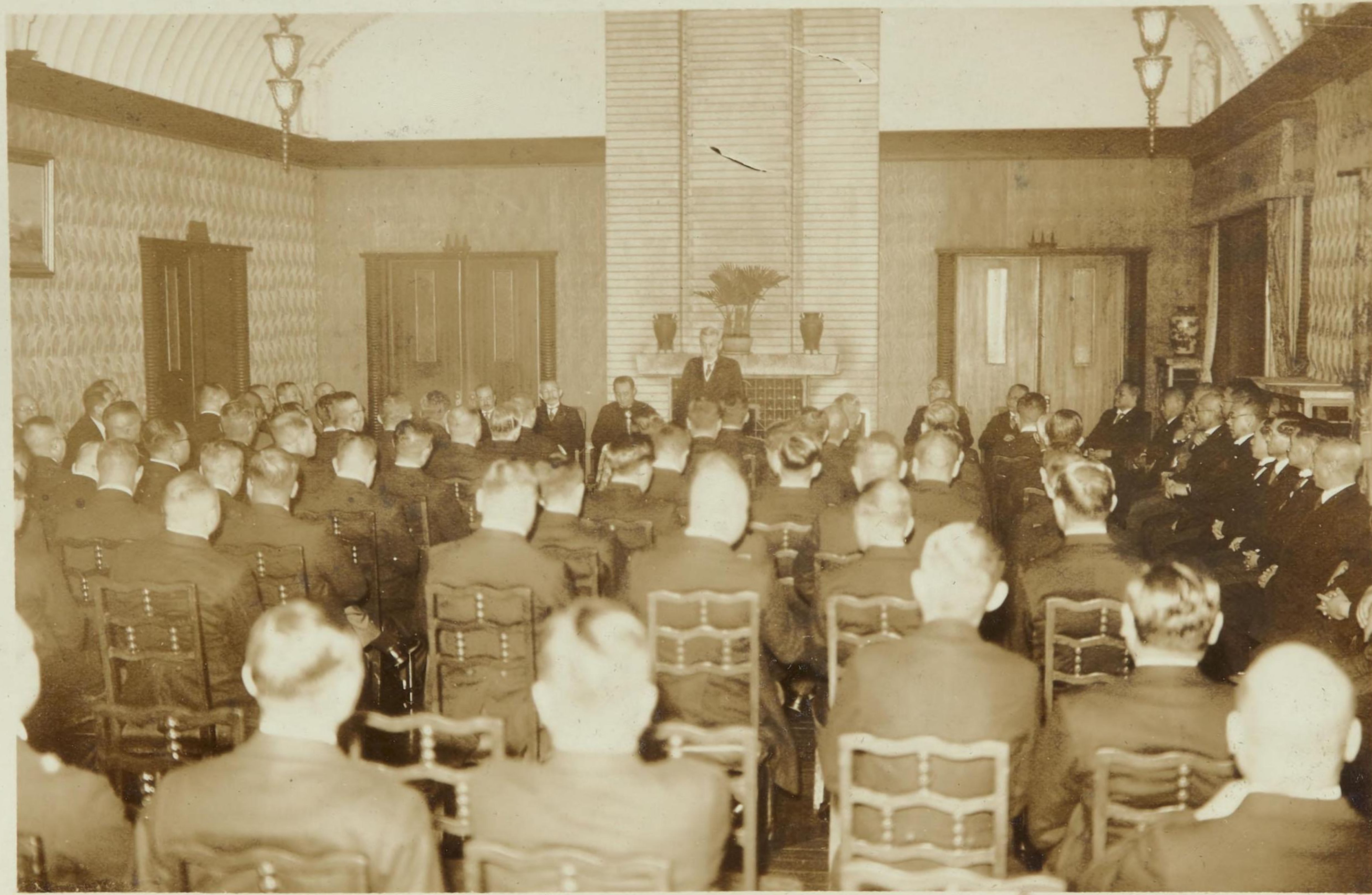
















◎決然空の戦場へ  
 飛行服姿も凛々しい「海  
 明治御官外苑海軍館正面玄關右側の芝生に建  
 てられることになつたこれは阿叢會員彫刻家  
 杉並區井萩三ノ三九清水多嘉示氏が空の戦場  
 に赴く時の颯々たる決死の姿を模したもので  
 ある。寫眞は此の荒鷲の像





◎天然紀念物に蜀鶏を指定  
日本の三鳴鶏として昔から高知の東天紅、秋  
田の聲良しと並んでその整調の朗々たる美聲  
と均齊のとれた美しい姿態を愛玩されてゐた  
蜀鶏を一日午後一時より文部省で開いた史蹟  
名勝天然紀念物調査會で新しく天然紀念物に  
指定した。眞は蜀鶏



◎地方長官會議 第二日

(東京) 十四年五月三日

地方長官會議 第二日の三日は午前八時半明治  
神宮、増田神社に参拜の後十時より内務省第  
一會議室に於て會議を開いた

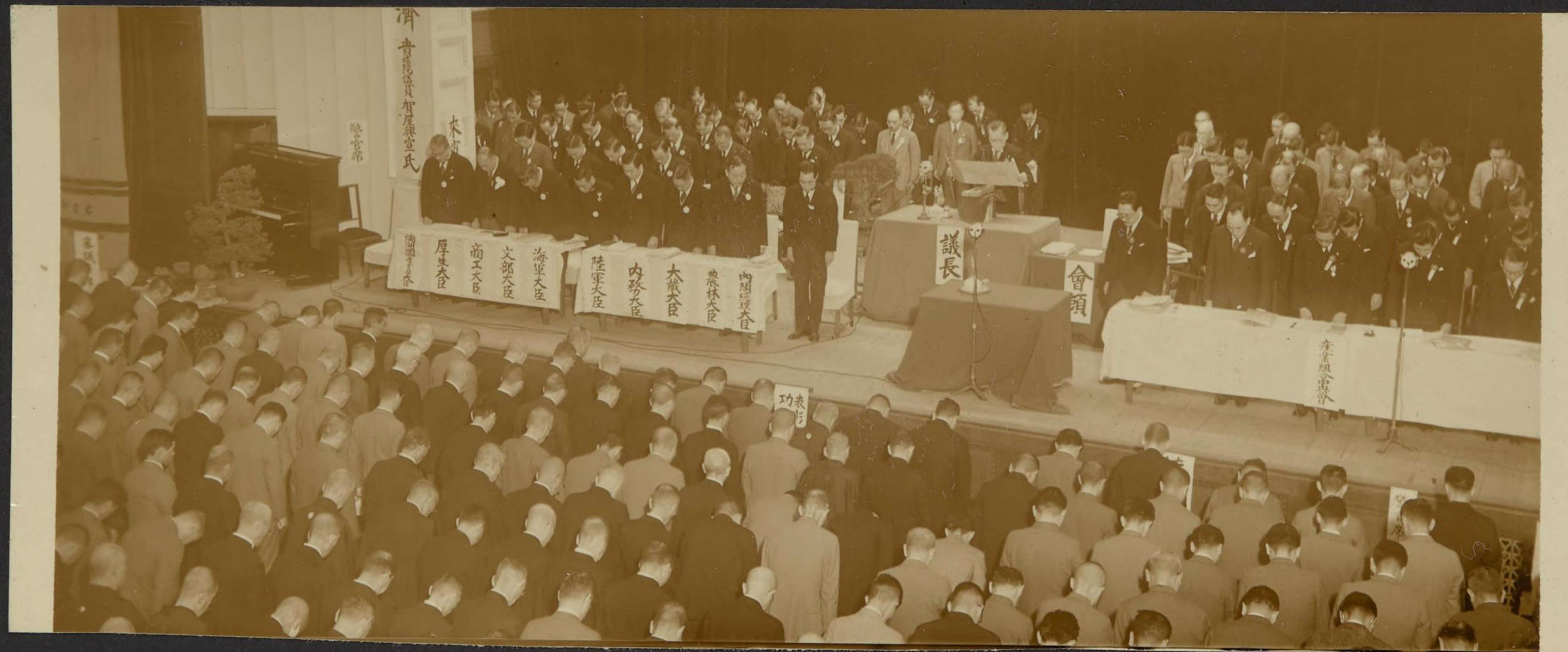
寫眞は内務省の訓示

◎全国産業組合大會

第三十四回全國産業組合大會は三日午前十時  
より青山青年會館に於て開催した。

寫眞は認書奉讀

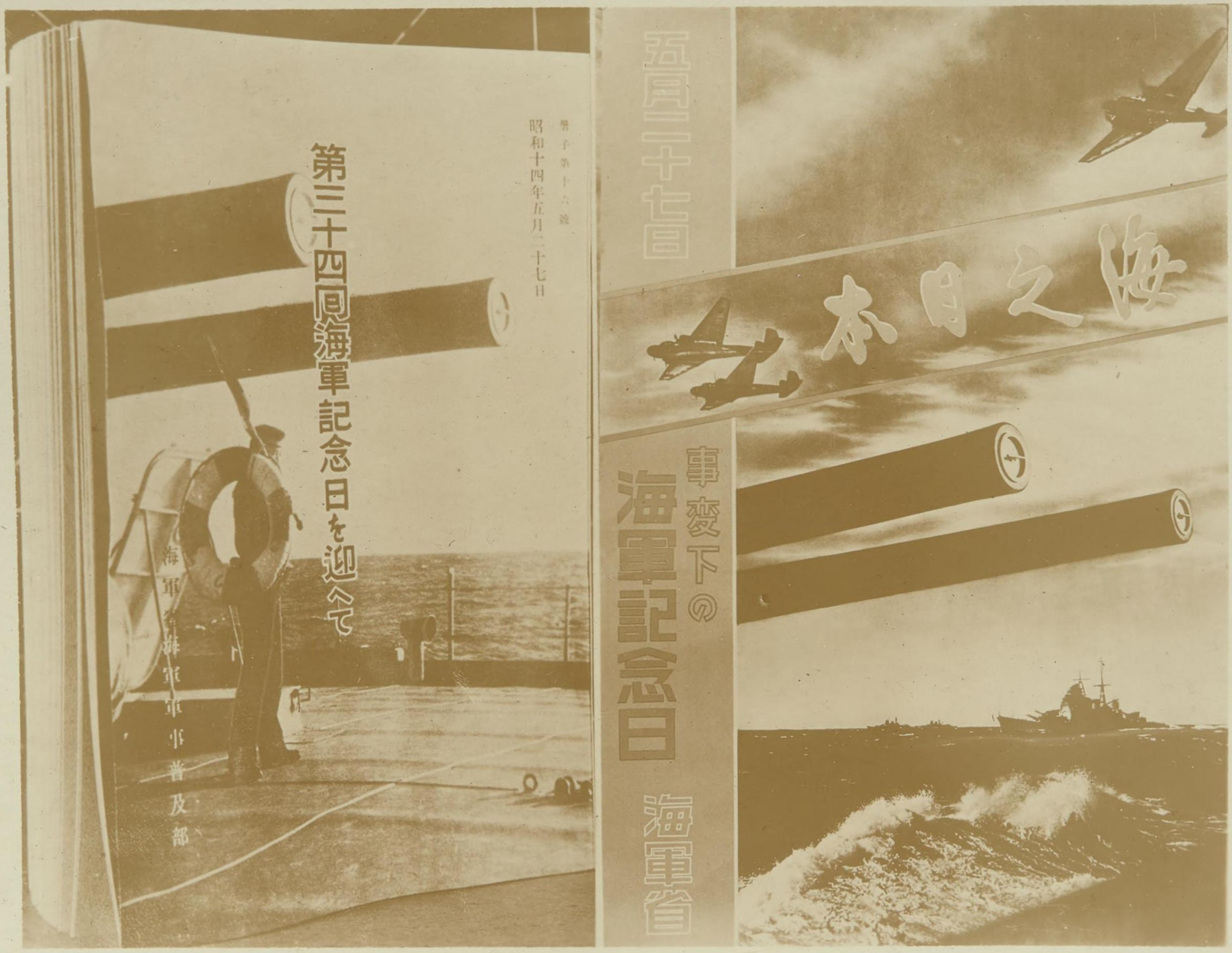






◎海軍記念日ポスター  
事變下二度目に迎へる五月二十七日第三十四  
回海軍記念日を意義ありしゆるため海軍省で  
ハパンフレット同海軍記念日を迎へて」と題す  
るパンフレット數十萬部とわが蒙艦に海の荒  
蕩を記した緑色のポスター「流の日本」を五  
月三日一齊に配布し前海陸の重要性を國民に  
呼びかけた。  
寫眞はポスターとパンフレット





五月二十七日

今日之海

事変下の  
海軍記念日  
海軍省

第三十四回海軍記念日を迎えて

昭和十四年五月二十七日

海軍省 海軍軍事普及部



◎風薫るけふ

御名代宮の台臨を仰ぎ  
日赤、愛婦兩總會

(東京)十四年五月四日

戦時下戦後を護つて一入目覺しい活躍を續け  
る日本赤十字社並に愛國婦人會の二團體では  
青葉齋る四日長くも皇后陛下御名代宮の台臨  
を仰ぎ聖戦下に再び迎へる意義深い通常總會  
を行つた。

寫眞は

一、皇后陛下御名代宮久慈宮大妃殿下と令旨  
奉答の閑院總裁宮殿下 (日赤總會) (於靈)

法記念館









◎訪日ガブレンツ機入京  
訪日ガブレンツ機は四日午二時三分羽田飛行場に安着した。  
寫眞は安着の一行





◎ガブレンツ男機一行神宮参拜  
 (東京)十四年五月五日  
 入京第二日のガブレンツ一行は五日午前十時宮城  
 遙拜の後、明治神宮、靖國神社を参拜各所に  
 挨拶廻りをした。  
 寫眞は明治神宮参拜の一行  
 ◎金集中運動に各方面の花形殺到  
 五日から開始された東京府國民精神總動員實  
 行部主催の金集中運動は府下の各銀行信託會  
 社で取扱を行つてゐるが意外に成績が良く何  
 れも受付に轉手古舞を演じてゐる  
 寫眞は柳橋の藝妓さん達(日本橋安田銀行)



◎大日本相撲協會々長推戴式  
大日本相撲協會々長竹下大將の推戴式は五日  
午前十時より國技館にて行はれた。

◎夏場所大相撲新番付發表

夏場所大相撲新番付は五日午前五時協會から

發表された。

寫眞は

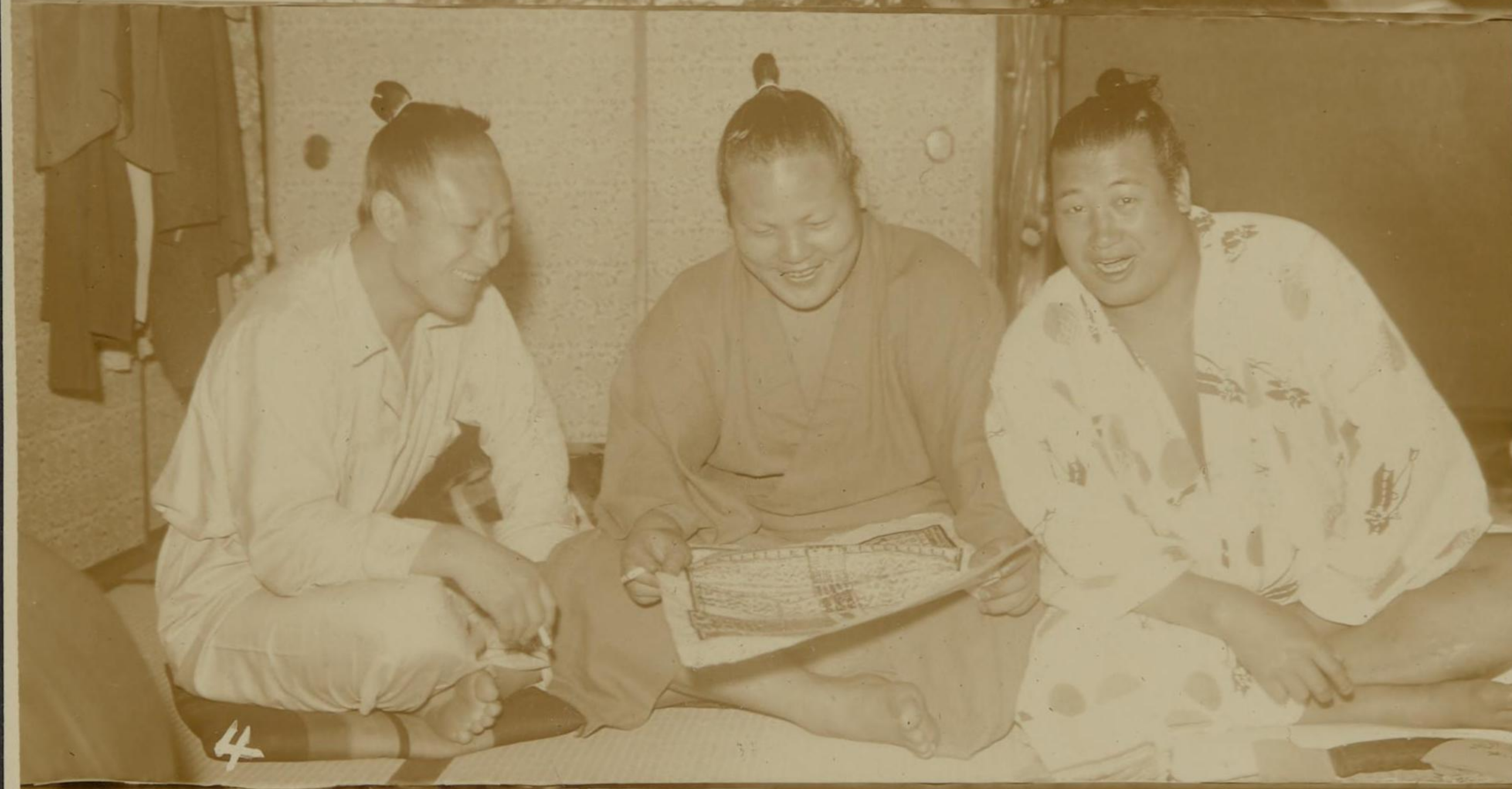
(上) 竹下大將推戴式

(中) 右より松の里、**倭岩** (以上新入幕) 武の

里 (新十兩)

(下) 右新入幕相模川、左**三**役小結出羽湊







因待古る、夏場所大相撲

(東京) 昭和十四年五月五日

番附は龍表を以て長期夏場所、半ヶ月の龍、攘虎  
 搏りあふ五日とあれば兩國界限、横綱、双葉、羽黒  
 名寄の兩関脇を擁し、今を盛りとの立浪、俊英、鏡ひ  
 立つ大出羽の海、玉の海が必死に守る二所、南守々右  
 部屋は火を吐く猛練羽負にいそしんでゐる。

(上) 立浪部屋 双葉(右)と大浪  
 冥真は(上) 立浪部屋 双葉(右)と大浪  
 (下) 二所、関部屋 佐賀の花肉と玉の海







因在米才二世へおくる祖國の姿

(東京) 昭和十四年五月六日

改進黨將政權のデマ宣傳に排日風潮高卷る米國在留  
邦人に聖戰の目的を認識せしめ祖國日本の実情に  
うとき才二世を隆光皇道精神を知りたるをわ外務  
省情報部が主体となり日本の真の姿を知りし寫真  
展覽會を桑港を振出しに太平洋沿岸三十数都市で  
開くことにあつた。

寫真はその寫真の一部

因ガブレンツ男一行招待午餐會

(東京) 昭和十四年五月六日

未朝中の空の珍客ガブレンツ男一行は六日正午麹町  
富士見町の遞信大臣官邸に莅り、田邊遞相招待の  
午餐會に臨んだ。  
寫真は遞相(左、手を掲げてゐる)とガ男(右、茶碗を  
持つ)



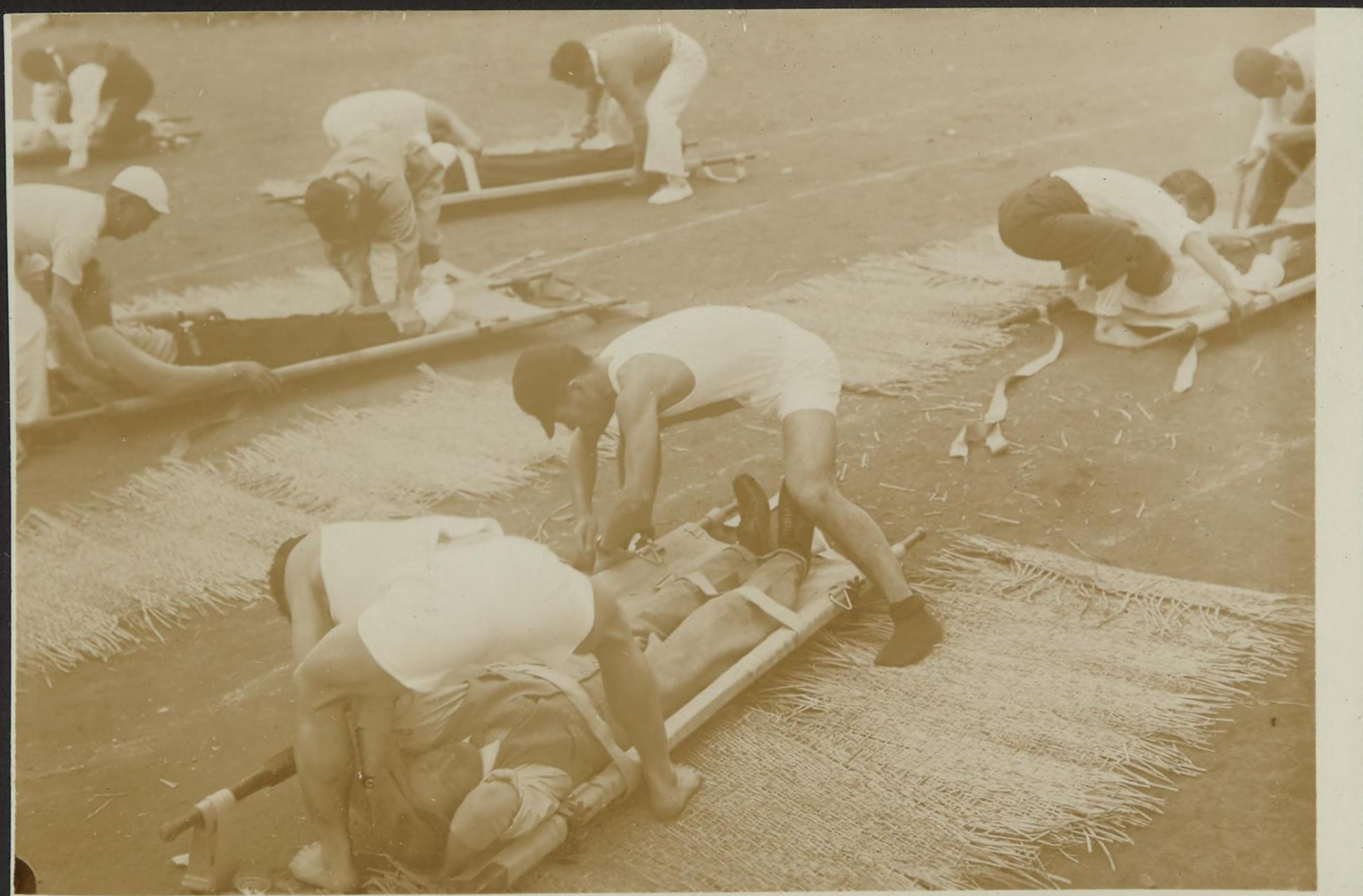






◎健兒隊に「龍虎」の銘旗授與式  
(東京)十四年五月七日  
大日本少年團聯盟總長竹下勇大將から東京聯合少年團青少年健兒隊に銘旗授與の式が七日午前十時から芝高輪の泉岳寺境内で行はれた  
寫眞は銘旗授與式





◎大宮人も体位向上

宮内省職員の運動會

戦時下に大宮人も体位向上と宮内省では七日

日自の學務院トラツクで十年振りに盛大な運

動會を催した

寫眞は架設競走





◎ 京大の五月  
「象牙の塔」を一般に公開する京大各部開放  
の五月祭は六、七の兩日盛大に開かれた。  
寫眞は醫學部にて





◎雅楽「坂王」一陪  
 官廷舞臺として遠綿千二百年の傳統も亦しい  
 雅楽「坂王」が國際文化振興會の手  
 にとつて映しに納められ、全世界に紹介される  
 ことゝなつた。寫眞は東京撮影所にて「陪」に



◎天覽馬術豫行演習

(東京)十四年五月八日

皇軍晴れの天覽馬術は来る十日午後二時から

行はせられが青葉蕨の舊本丸の馬場では八日

午前十時から寺内、畑圃大將、板垣陸相、西

尾教育總監以下光榮の出席者百三十名が参加

其の日のまゝの豫行演習を行つた

寫眞は上、天覽馬術豫行

下、畑圃大將、寺内大將

教育總監、畑大將、板垣陸相、西尾







◎いよ／＼デビユールした

木炭スタンド

(東京) 十四年五月八日

ガソリン統制の高波を受けて非常時日本の電  
兒木炭自動車も代用車時代から一歩進めて實  
用時代に入り自家用車も續々と改造されつゝ  
あるが今度ガソリンスタンドに變る最初の圖  
策形木炭スタンドが神戸市にデビユールした  
寫眞は

1. 木炭スタンド

2. ガソリン嬢に變つて跳び出た木炭ボーイ







◎聖なる紫色に親善の焰點火式

一 東京一十四年五月九日  
ニ エイヨーク 萬博日本館に日本デを助して  
煌々と輝く一日米親善の焰點火式は風薫る  
九日午前九時から日比谷公園新音楽堂で盛大  
に舉行された。  
寫眞は頼母本市長よりミス日本月本咲子さん  
に聖火傳達







◎志村セロイド工場爆発  
九日午前九時卅分頃板橋區志村小豆澤町八六  
五大日本セロイド株式會社東京工場が突如  
爆発音は二回に亘り帝都を震撼し白煙濛々  
として天に沖し物凄いの壯景を呈してゐる  
寫眞は爆發現場



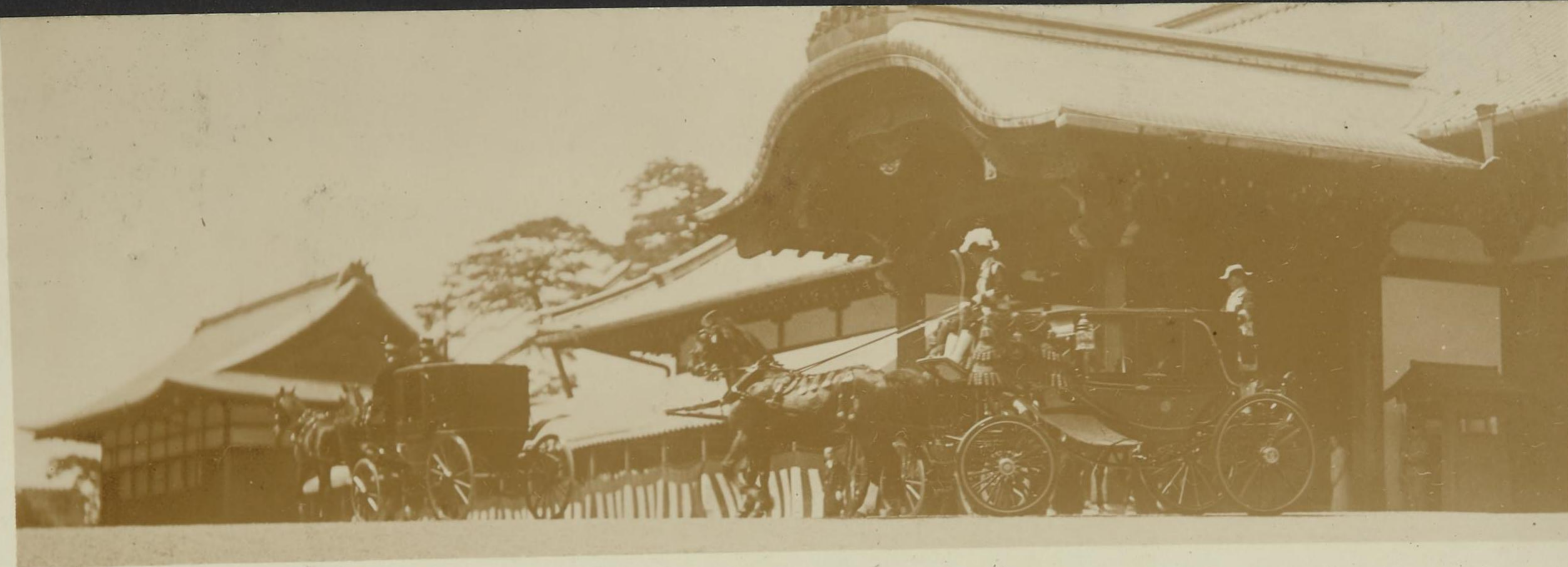




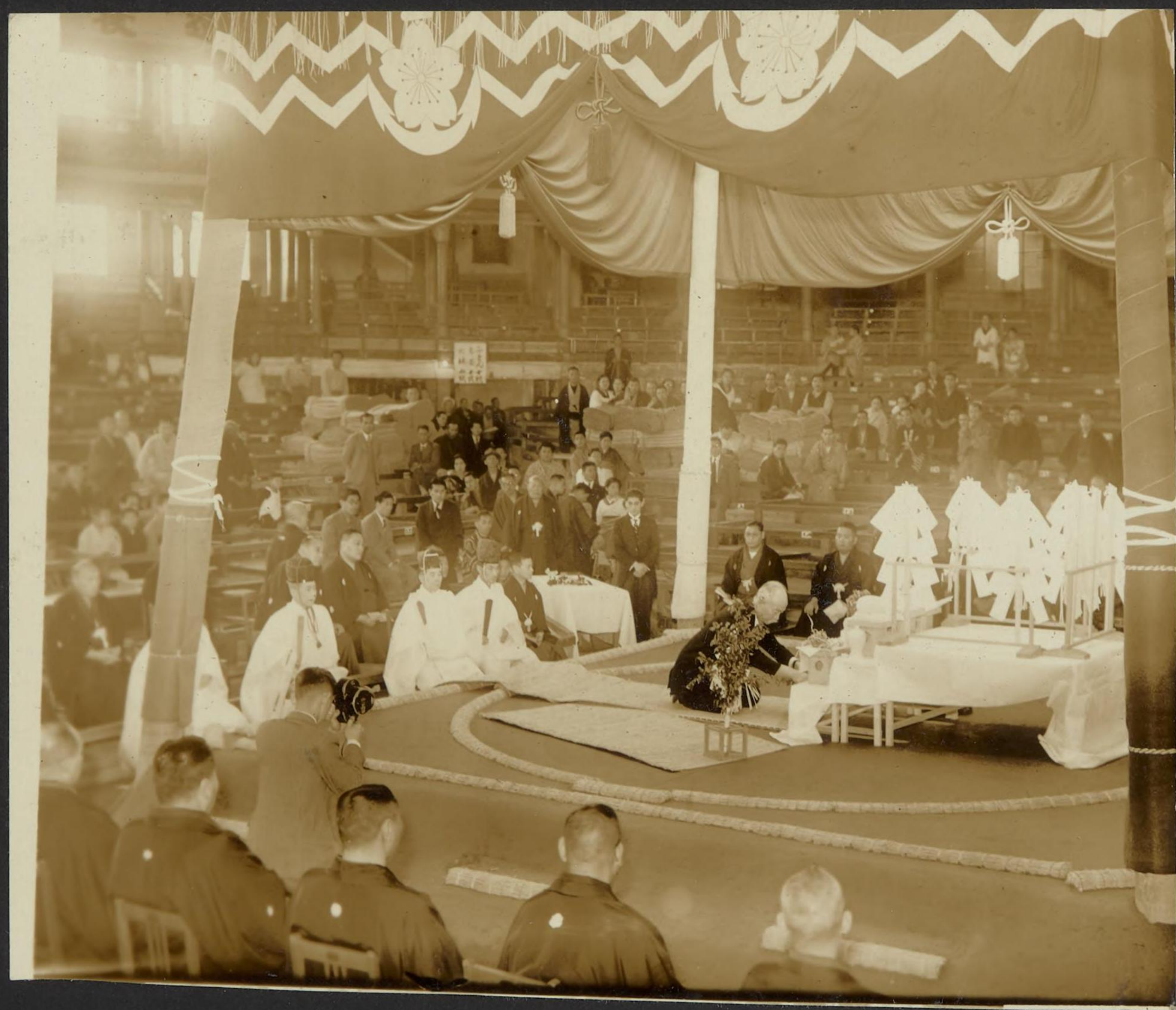
◎清宮様三殿初の御参拜  
（東京）十四年五月十日

清宮貴子内親王様には御誕生から丁度七十日  
目の十日、御目出度く宮中三殿に初の御参拜  
を遊ばされた。寫眞は東京寄にて  
◎李王妃殿下は十日午後一時商工獎勵館で開  
李王妃殿下には十日午後一時商工獎勵館で開  
催中のスポーツ展にお成り遊ばされた  
寫眞は同展にて謹寫









◎夏場所觸れ太鼓  
 夏場所初日を十一日に控へて十日午前十時古  
 式の土俵祭を十年振りで行ひ終つて觸れ太鼓  
 は夏空に雲高く荷頭へ繰出した  
 寫眞は一竹下市長の玉串奉奠





◎秋葉保廣氏歸朝  
 十日神戸より横濱入港の龍田丸で秋葉保廣氏  
 一家は騒亂で孤兒をなつた支那の可愛らしい  
 姑嬢藏阿鳳さん(十二歳、前列左より二人目)  
 を伴ひ歸朝した。寫眞は秋葉氏一行





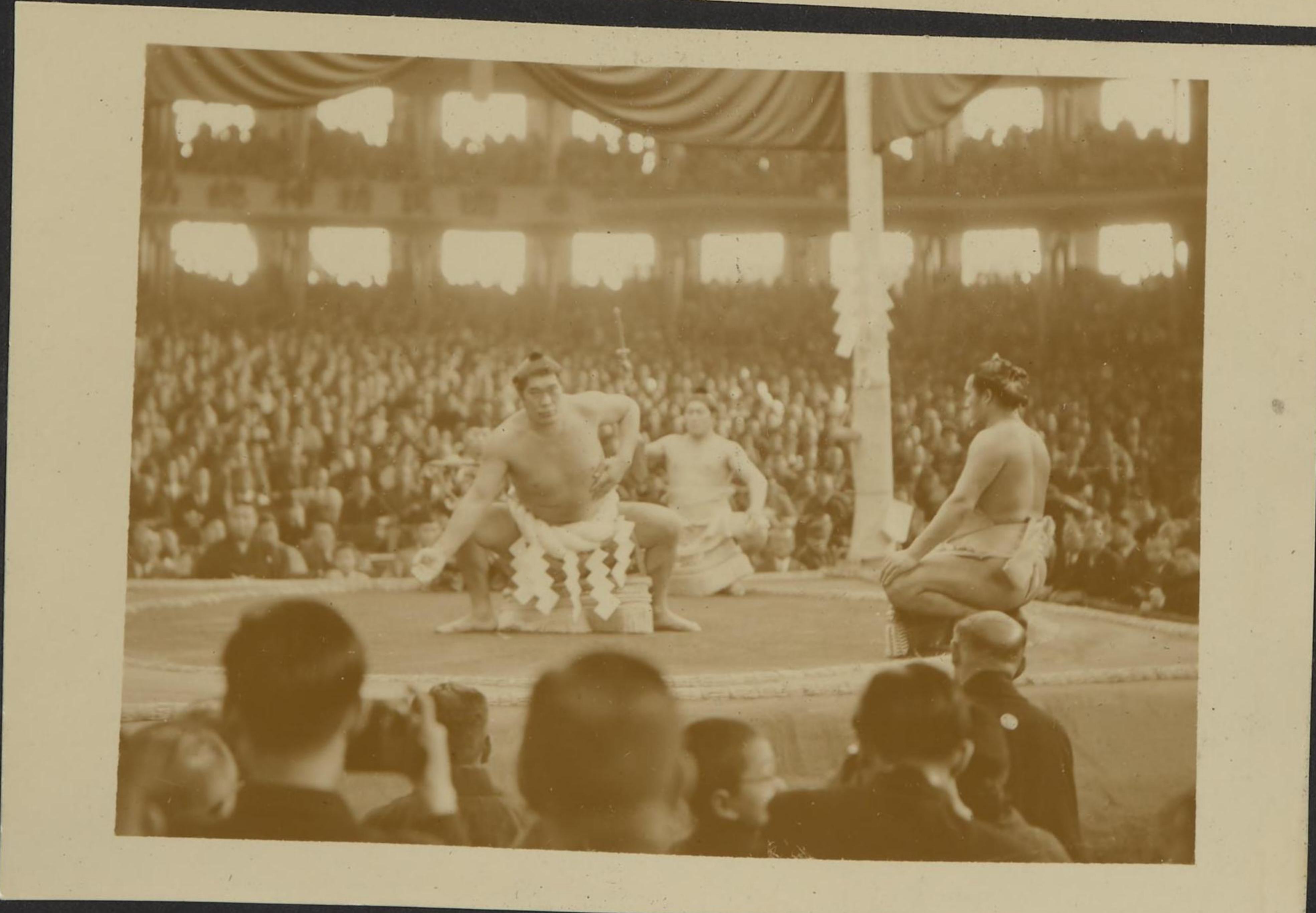
◎平沼首相詣て  
 一、四月十一日  
 東京、日光に青葉黨の十一日平沼首相は中  
 然たる局長等を伴ひ埼玉縣大宮町の氷川神社  
 野神社、首相就任の報告を行つた  
 に参拜、氷川神社参拜の平沼首相  
 寫眞は





◎夏場所開かる  
 角狂連待望の夏場所大相撲はいよ  
 十一日  
 より開幕、初日は大衆デパートにて雑壇も一般に  
 解放され場内は早くも満員の盛況である  
 寫眞は一、満員の國技館一、双葉（上）男  
 女川（下）兩横綱の土俵入り









◎ 聖火、アメリカへ  
 けふ午後三時、横濱出帆、桑港へ向ふ龍田丸に上  
 つて出雲大社からニューヨーク萬博への聖火  
 る。親善の焰を捧持の美しき使節、月本映子  
 嬢をはじめ、藝術行脚の水の江瀧子嬢、歐米各  
 國を視察の吉岡彌生女史等々、異國へ輝しい鹿  
 島立をなした  
 寫眞は  
 一、龍田丸船上のミス日本、月本映子嬢とタ  
 キー



◎ガブレンツ男に勳章贈與  
十一日午後四時、信省大臣室に於いて田邊  
相より生の日、獨親善使節ガブレンツ男  
に對して勳三等瑞寶章の傳達式が行はれた  
寫眞は傳達式







◎東京夏場所大相撲初日

(東京)十四年五月十二日

寫真帖

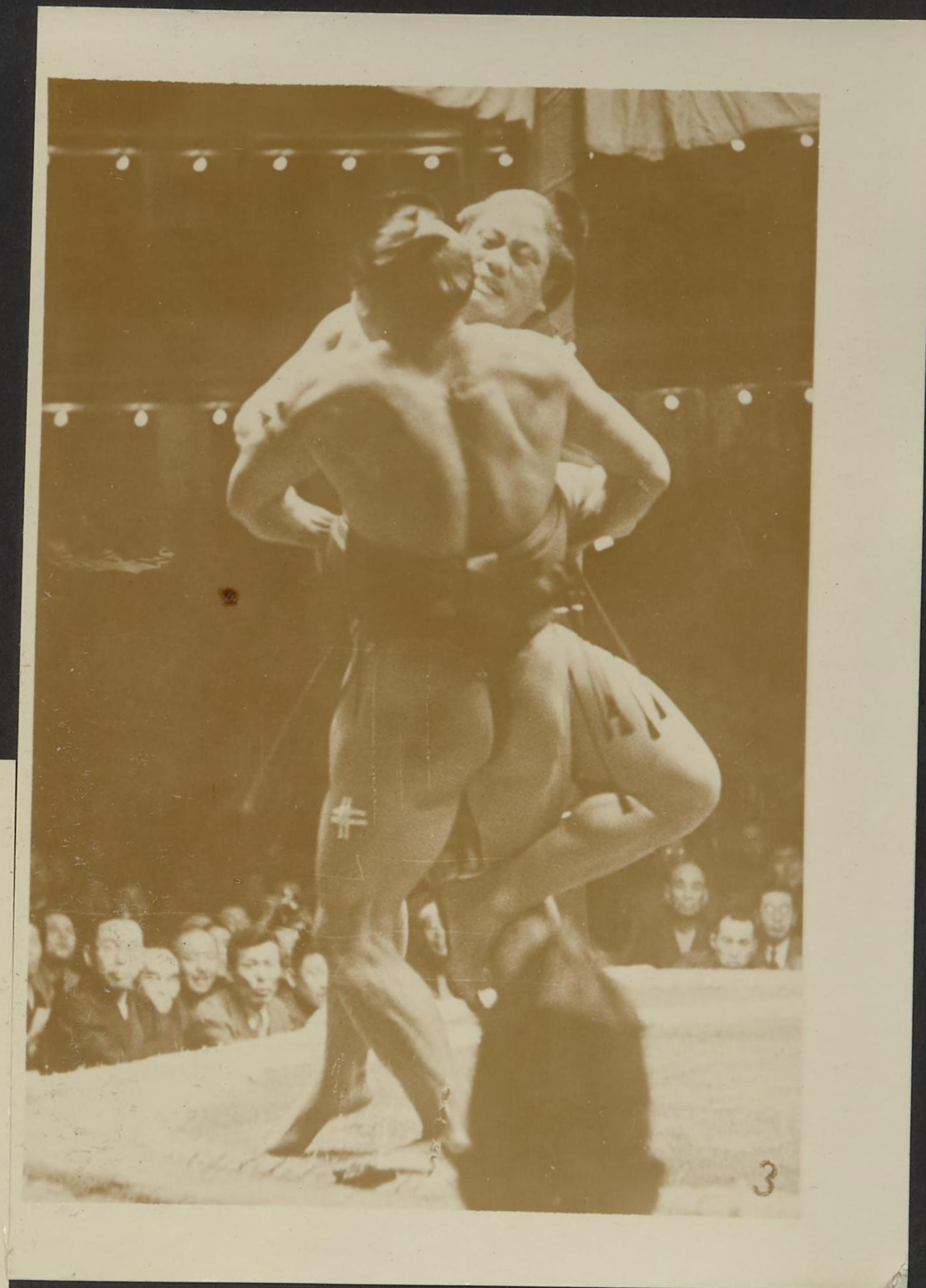
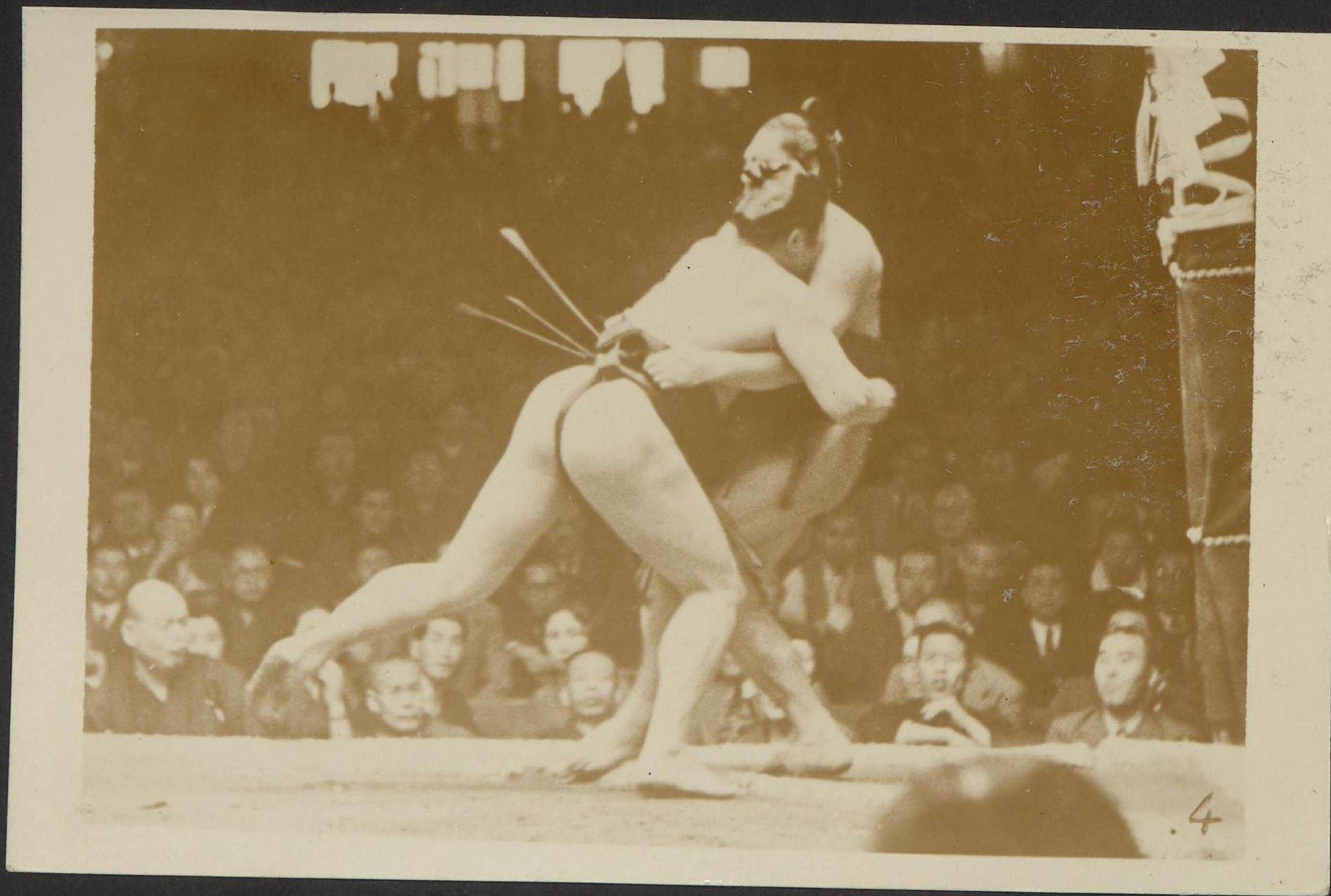
3. 兩

國 (浴出し) 前田山

4. 富

士 嶽 (吊出し) 肥州山







◎ 鈴木總裁後任に久原氏を指名

(東京) 十四年五月十三日

政友會傳統派の三土、久原、芳澤三代行委員

鳩山、川村、濱田の各長老並に岡田幹事長は

十三日午前十一時九段の鈴木總裁邸に召集し

一同打揃つて鈴木總裁に面接、鈴木總裁は八

代目總裁として久原氏を指名推薦した

為眞は鈴木總裁を取圍んで右から岡田、久原

鳩山、三土、川村、芳澤の各氏

◎ 早慶對抗陸上競技

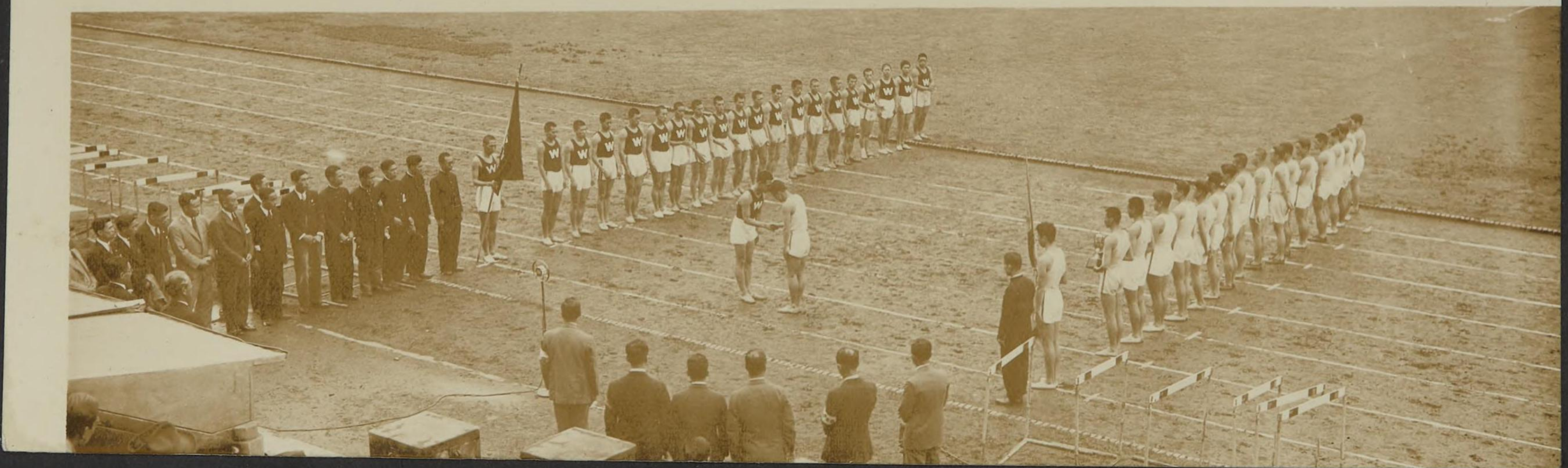
早慶對抗陸上競技は十三日午後一時半から神

宮競技場に於いて開かれた。

為眞は兩軍主將の握手

濱田







同盟軍真部 五月十四日

◎ 夫那多支ニヨース

三、早くも炎熱、来の漢口、火に暑くうたる  
人力車夫

四、蚊軍防備の蚊帳の掛準備に忙し  
漢口を野戦病院







同盟軍真部五月十四日

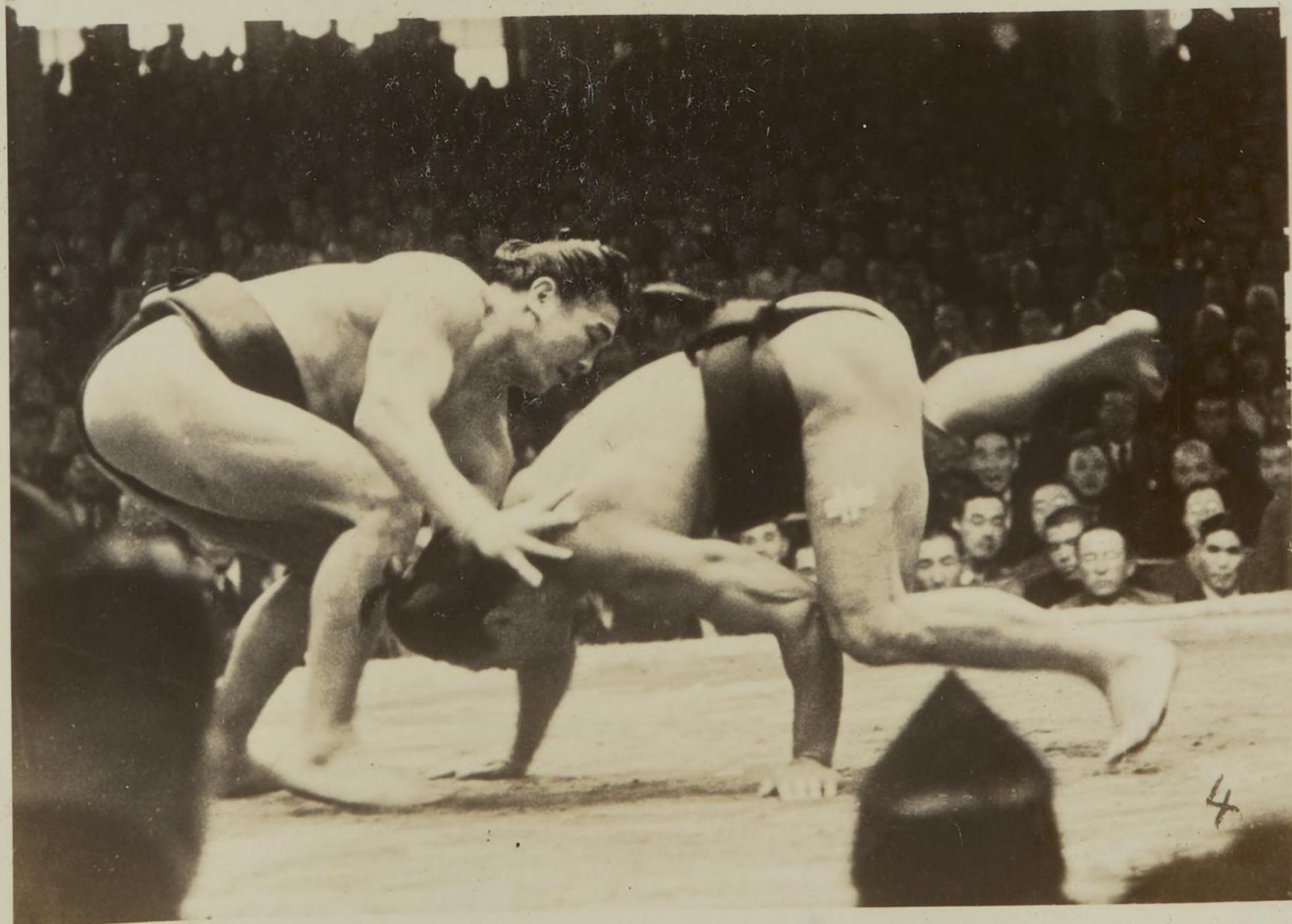
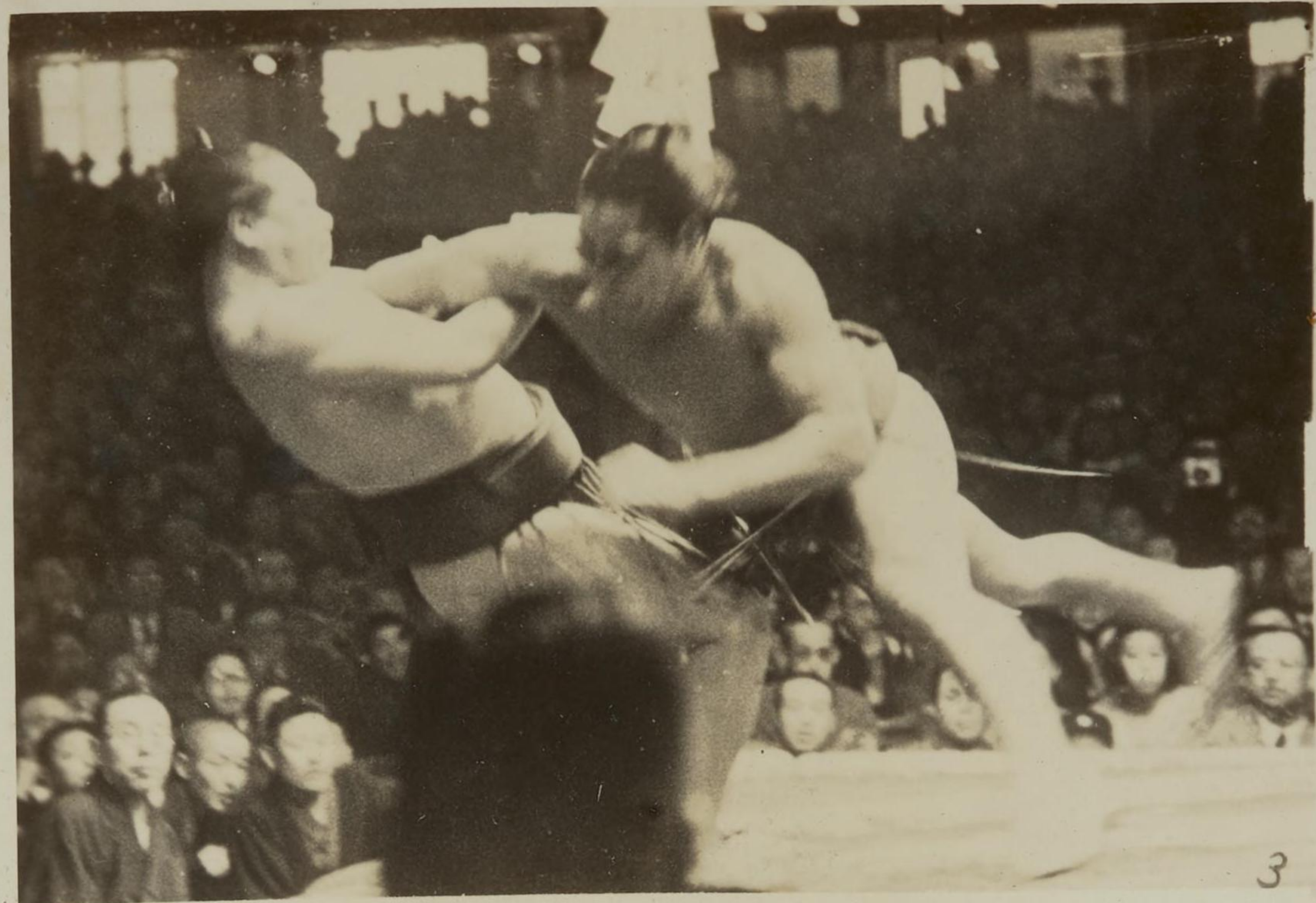
◎ 特殊ニシテ (カ一―四号)

△ 東京夏場所大相撲三日目

三、五の海(宝の切り)綾昇

四、旭川(肩帯)二ノ両







◎市長區役所・小學校視察  
カラリと晴れた十五日朝十時十分、  
の東京市長にをままつた頼母木さんが  
常小學校にあらはれた、市長就任廿二日、  
したしくお慶もと各區内の聲を聞かうといふ  
、親ごころ視察・初日である  
寫眞は麹町小學校にて兒童の体育練習視察の  
市長







◎中央賃金委員会初總會  
中央賃金委員会は、愈々十五日厚生省に初總會  
を開催、機械器具製造、船舶車輛製造、金屬  
工業等所謂時局産業従業員約一百万人に適用  
さるべき初賃金及び標準賃金決定の審議に着手  
した。給  
寫眞は廣瀬厚福の挨拶







◎七妃宮様日赤お成り  
 一東京一十四年五月十六日  
 秩父宮妃、高松宮妃、賀陽宮妃、久遠宮大妃  
 朗香宮妃、東久遠宮妃、李鍋公妃の御七段下  
 に御遊ばされにて十六日午前十時日赤本社に御  
 成り遊ばされに特志着護婦人會作蒙室に後同  
 殿下には親しく飾帯を御巻遊ばされに後同  
 十時半から社内博物館に開催中の大盛衛生展  
 を係員の御説明にて同十二時まで御熱心に御  
 覽遊ばされに。御寫眞は御右から秩父宮妃、賀陽宮  
 高松宮妃、久遠宮大妃、東久遠宮妃、賀陽宮  
 妃の各妃殿下









◎司法長官會同  
司法長官會同第一日は十六日午前九時半司法  
省會議室に於いて開會した  
寫眞は司法大臣の御家





◎學務部長會議  
全國學務部長會議第一日は十六日午前八時冊  
分内務省會議室に於いて開會した  
寫眞は内相の訓示（館次官代讀）



◎ 南洋船隻出港

（東京）十四年五月十七日  
全開公立商船學校航海科卒業の百名を乗せた  
文部省採得船日本丸と海王丸は十七日午前九  
時半東京芝浦港を出帆、帆船編隊で勇躍北米  
桑港へ向け第廿次遠洋航海の壯途にのぼつた  
爲眞は出帆の海王丸（手前）と日本丸







◎都下中等生徒の御親閲豫行演習  
軍機十五周年を記念して廿二日宮城前廣場で  
行はれる全同學生々代表御親閲式に參加の  
光榮に浴する東京府下の中等學校生徒の豫行  
演習は十七日午後二時から代々木練兵場にお  
いて大野歩兵大佐の指揮で舉行された。  
為眞は豫行演習

◎明法二回戦  
明法二回戦は十七日午後二時半神宮球場に於  
いて行はれた。  
為眞は三回戦表明治大木、投手長平、制は危く生く(巨砲主)







◎賜暇歸朝のクルー米大使外相訪問  
（東京）十四年五月十八日  
十九日未明横濱出帆のカナダ太平洋汽船エン  
ブレス。オプ。シヤパン號で賜暇歸朝するグ  
ルー米大使は歸朝の挨拶のため十八日午前十  
一時外務省に有田外相を訪問して信別の會見  
を行つた。寫眞は外相訪問の米大使

◎帽子学校生れる

完全を製帽の知識と歐米の技術者に劣らな  
い洋のキードをばつきりと作り出す事を主眼  
として日本で初めて帽子学校が新歸朝の岡  
田氏を院長として谷永在町に出来た。  
寫眞は岡田全弘氏（左から三人目）の製帽教  
授







◎事變忠勇死傳に全國遺族の感謝  
財団法人忠勇死傳會にて第一回支那事變忠勇  
死傳を出版遺族始め各方面に配布、同會には  
遺族からの感謝の手紙が山積、常任幹事石坂  
弘毅少尉はこの様を遺族の喜びを知つては  
萬難を排し十年、廿年かゝつてもこの忠勇烈  
傳は完成するつもりです」と語つた  
寫眞は遺族よりの感謝の手紙を讀む石坂弘毅  
少尉

◎全産聯總會定時總會  
一東京一十四年五月十八日  
全産聯總會では十八日午前十時より  
丸の内日本工業俱樂部で定時總會を開催、八  
田商相、廣瀬厚相も出席、會長以下役員改選  
及び顧問推薦の件を附議、藤原會長以下何れも  
重任と決定した。寫眞は八田商相の挨拶







◎ 濟寧館武道大會第一日弓道  
（東京）十四年五月十九日  
官内省皇官警察武道大會第一日弓道試合は青  
葉黨る十九日官城内濟寧館弓道場にて行は  
れた。為真志千葉胤次馳士の奉射









◎ビル街に防火網  
警視廳消防部ではビル街の防火完璧に乘出す  
こととなり地下室消火用タンクに依る自力消  
火ブロッツク計畫を樹てスキッチ一つでブロッ  
ク内は勿論附近一帯を各自の水幕で包圍する  
ことが出来ることとよ公開實驗を十九日午前十  
時より麹町區内幸町の一角で行つた。  
寫眞は大阪ビル前にて





◎ 荒木文相視察抗研と傳研へ  
（東京）十四年五月廿日  
二日間に亘つて東大全構内を視察し終へた荒  
本文相は二十日抗空研究所並に傳染病研究所  
の兩附屬研究所を視察した  
寫眞は抗研視察の文相



◎歐洲情勢對應策政府方針決定  
歐洲情勢に對處すべき帝國政府の根本對策を  
決定すべく政府は廿日午前九時廿分より首相  
官邸に緊急五相會議を開會、こゝに帝國政府  
の歐洲情勢對處の根本方針を決定、平沼首相  
は午后一時半參内天皇陛下に拜謁仰せ付けら  
れ五相會議に於て決定せる政府の歐洲情勢對  
處方針について奏上種々御下問に奉答御請を  
退下した  
寫眞は五相會議に臨む陸、海、外、藏の各相  
と參内の首相









四  
八  
五  
五  
名  
大  
初  
共  
進  
会  
中  
田  
全  
日  
本  
綜  
合  
畜  
犬  
共  
進  
会  
は  
廿  
一  
日  
上  
野  
公  
園  
動  
物  
園  
前  
広  
場  
に  
於  
て  
開  
か  
れ  
た。  
上  
野  
公  
園  
は  
犬  
の  
共  
進  
会



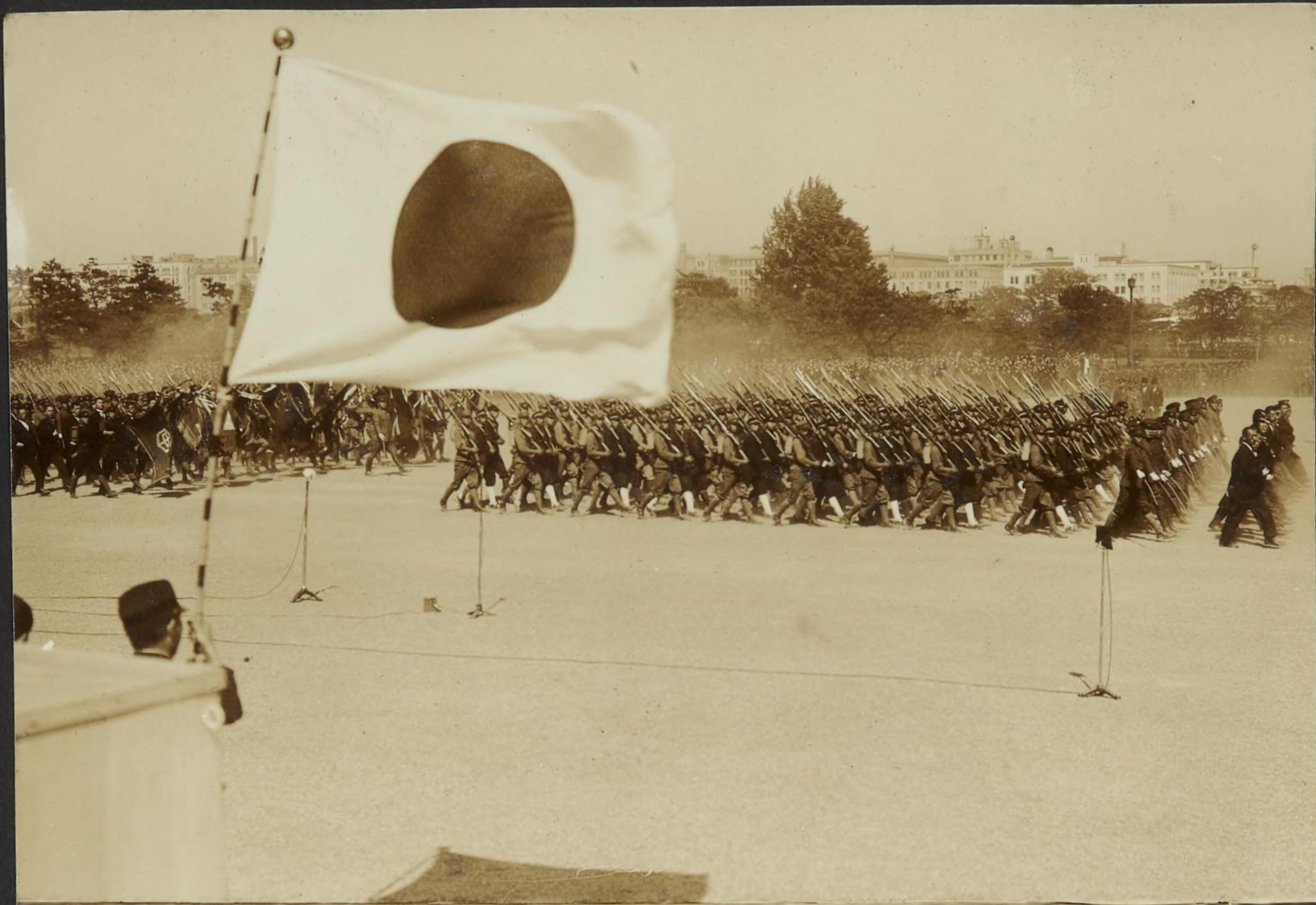


西中久少氏 望月長老を訪問  
政友会革新派總裁中久知久平氏は廿日午  
十時半午時ヶ谷の私邸に望月氏を訪問梅  
鉢齋一丈 望月氏は左中久少氏 右望月氏



西學生部隊御親園参行  
晴の軍教十五(固年)御親園式を明日に控へ  
廿一日の午後二時から宮城参府路に於て當  
の盛観をのまの参りかかほれぬ。  
由事真は御親園参りとは指揮官中山少将







◎光榮に勇む三萬五千の若人

（東京）十四年五月二十二日

現役將校學校配屬令制定十五周年を記念する

職員學生徒三萬五千の御親閱式は初夏の空

爽やかに風薫る二十二日午前十時長くも天皇

陛下の親臨を仰ぎ宮城前廣場に於て事變下に

一人の意義深く舉行された。

寫眞は

一、聖上陛下御親閱

一、分列行進









◎學生代表明治神宮靖國神社參拜  
 御親閱の光榮に浴した學生生徒の各部隊は正  
 午夫々晝食をした、ゆへ午後零時廿分より  
 隊に分れ市中を武裝行進し明治神宮、靖國神  
 社を參拜した。  
 寫眞は靖國神社參拜





朝鮮志願兵陸相訪問  
◎朝鮮志願兵陸相訪問  
陸相を訪問した  
為眞は陸相の訓示  
二日午後二時陸相官邸に板垣



◎法帝第二回戦

(東京) 十四年五月二十三日

法帝第二回戦は二十二日午後二時四十分から

神宮球場に於いて法政先攻で開始された

眞眞は五回法政森下、田川の重盗成つて森下

本壘を陥す







×  
×  
×  
×  
×  
×  
×  
×  
×

一、河東村附近を進撃する〇〇騎兵部隊（五  
台山五月十七日）







◎ 纏にしのお江戸の名残り

(東京)十四年五月廿四日  
江戸八百八町の火消を記念するたゆ結成され  
た江戸消防記念會主催の第一回記念纏祭は廿  
四日午前一時から淺草公園内消防殉職者表彰  
碑前で盛大に舉行された  
寫眞は纏祭り







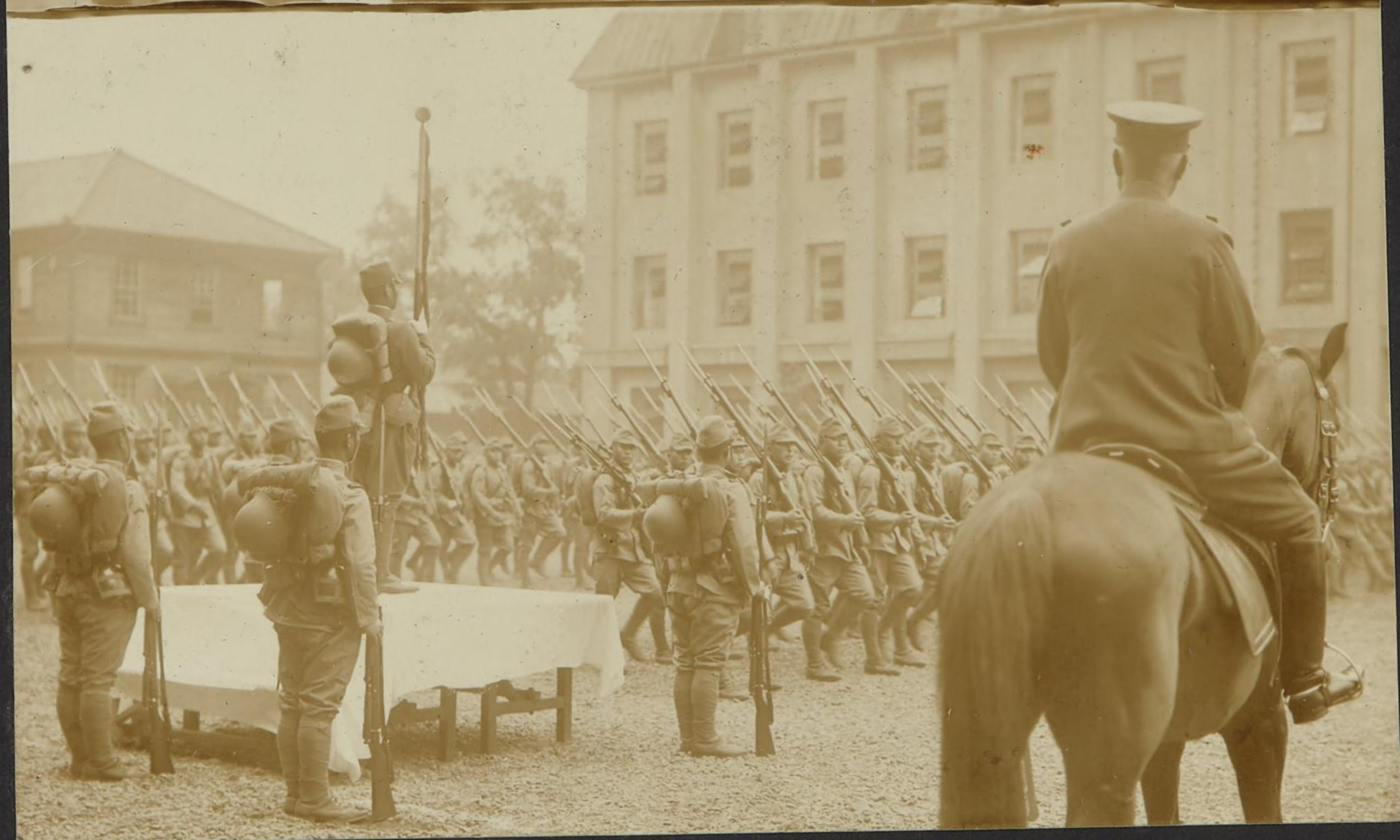
御親閱の光榮に浴した關東州及び滿洲國の學生代表三十名は廿四日朝大連中學校に板垣陸相を訪問、懇ろな訓示を受けて陸相官邸に板垣陸相を訪問、元氣で引揚けた。寫眞は滿洲國及び關東州の學生代表に訓示する陸相

◎近歩四聯隊軍旗祭

近衛歩兵第四聯隊第五十三回軍旗祭は寧波下

一しほ意義深く廿四日青山の同聯隊營庭で舉行された。寫眞は軍旗祭







◎東京夏場所大相撲十四日

(東京)十四年五月二十五日

寫眞は

3. 照 國(上手投)安 海

4. 羽 黒 山(押切り)男 女 川

いお断りい

締切時間の都合上一部地方は若干の繰延を  
免かれません